

論 文 内 容 要 旨

題目 Impaired social cognition in anorexia nervosa patients  
(神経性無食欲症患者における社会認知の障害)

著者 Sayo Hamatani, Masahito Tomotake, Tomoya Takeda, Naomi Kameoka,  
Masashi Kawabata, Hiroko Kubo, Yukio Tada, Yukiko Tomioka, Shinya  
Watanabe, Tetsuro Ohmori

平成 28 年 10 月 5 日発行 Neuropsychiatric Disease and Treatment  
第 12 巻 2527 ページから 2531 ページに発表済

内容要旨

神経性無食欲症 (Anorexia Nervosa, 以下 AN) 患者にみられる社会認知の障害は、痩せや抑うつ、不安などの臨床症状の影響によるものなのか、それとも AN 患者の特性的なものなのかは明らかではなかった。そこで本研究では AN 患者における社会認知の特徴を明らかにすることを目的とした。

徳島大学病院精神科神経科に通院中もしくは入院中の AN 患者 18 名 (平均年齢 35.4 歳, SD=8.6) と、年齢、性別、Intelligence Quotient をマッチさせた健常者 18 名 (平均年齢 32.8 歳, SD=9.4) を対象とした。知的レベル、抑うつ症状、不安症状の評価は、それぞれ、Japanese Adult Reading Test (JART), Beck Depression Inventory-II (BDI-II), State-Trait Anxiety Inventory-Form JYZ (STAI-JYZ) を用いて行った。社会認知の評価は Social Cognition Screening Questionnaire (SCSQ) を用いて行った。本研究は、徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得て行われた。統計解析は PASW Statistics 18 software (SPSS Japan institute 2009) を用いて、AN 患者と健常者の臨床症状と社会認知の得点の比較を Mann-Whitney U-test を用いて行った。 $r(Z/\sqrt{N})$  で効果量を算出し、 $r > 0.1$  (効果量小),  $r > 0.3$  (効果量中) そして  $r > 0.5$  (効果量大) とした。さらに、SCSQ 得点の有意な差が他の臨床要因の影響を統制した時にも認められるかどうかを検討するために、前述の Mann-Whitney U test で有意差を示した変数を共変量として、共分散分析を行った。そして、 $\eta_p^2$  (SS effect / (SS effect + SS error)) で効果量を算出し、 $\eta_p^2=0.01$  (効果量小),  $\eta_p^2=0.06$  (効果量中),  $\eta_p^2=0.14$  (効果量大) とした。

AN 患者群は健常者群よりも Body Mass Index (BMI) ( $U=0.00$ ,  $p < 0.0001$ ,  $r = -0.86$ ) が有意に低かった。また、AN 患者群は健常者群よりも BDI-II 得点

## 様式(8)

( $U=30.00$ ,  $p<0.0001$ ,  $r=-0.70$ ), state anxiety 得点 ( $U=51.50$ ,  $p<0.0001$ ,  $r=-0.58$ ), trait anxiety 得点 ( $U=29.00$ ,  $p<0.0001$ ,  $r=-0.70$ ) が有意に高かった。また, SCSQ については, 心の理論得点 ( $U=85.50$ ,  $p=0.012$ ,  $r=-0.42$ ), メタ認知得点 ( $U=94.00$ ,  $p=0.023$ ,  $r=-0.38$ ), SCSQ 合計得点 ( $U=67.50$ ,  $p=0.003$ ,  $r=-0.50$ ) において, AN 患者群が健常者群よりも有意に得点が低かった。しかし, 言語記憶得点, 文脈からの推測得点, 敵意バイアス得点については有意な差は認められなかった。さらに, BDI-II 得点, STAI-JYZ 得点 そして BMI を共変量として共分散分析を行った結果, 同じように, 心の理論得点 ( $F(1, 30) = 6.60$ ,  $p=0.015$ ,  $\eta^2=0.16$ ), メタ認知得点 ( $F(1, 30) = 5.62$ ,  $p=0.024$ ,  $\eta^2=0.13$ ) そして, SCSQ 合計得点 ( $F(1, 30) = 8.01$ ,  $p=0.008$ ,  $\eta^2=0.17$ ) において, AN 患者群が健常者群よりも有意に得点が低かった。

本研究より, AN 患者は他者の気持ちを推論することや自己の認知活動を客観的にとらえ評価することが不得意であることが示された。そして, これらの特徴は痩せや抑うつ症状, 不安症状の影響によるものではなく, AN 患者の特性であることが示唆された。

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲医第 <b>1320</b> 号	氏名	濱谷 沙世
審査委員	主査 香美 祥二 副査 苛原 稔 副査 勢井 宏義		

題目 Impaired social cognition in anorexia nervosa patients  
(神経性無食欲症患者における社会認知の障害)

著者 Sayo Hamatani, Masahito Tomotake, Tomoya Takeda, Naomi Kameoka, Masashi Kawabata, Hiroko Kubo, Yukio Tada, Yukiko Tomioka, Shinya Watanabe, Tetsuro Ohmori  
平成 28 年 10 月 5 日発行  
Neuropsychiatric Disease and Treatment 第 12 巻 2527 ページから 2531 ページに発表済  
(主任教授 大森哲郎)

要旨 神経性無食欲症 (Anorexia Nervosa、以下 AN) において社会認知障害の存在が示唆されているが、それが臨床症状の影響か、患者の持つ特性かは不明確である。本研究では、AN 患者における社会認知の要因を検討した。

AN 患者 18 名 (平均年齢 35.4 歳、SD=8.6) と、年齢、性別、知能をマッチさせた健常者 18 名 (平均年齢 32.8 歳、SD=9.4) を対象とした。知能、抑うつ症状、不安症状の評価は、それぞれ Japanese Adult Reading Test (JART)、Beck Depression Inventory-II (BDI-II)、State-Trait Anxiety Inventory-Form JYZ (STAI-JYZ) を使用した。社会認知の評価は、Social Cognition Screening Questionnaire (SCSQ) を使用した。まず、AN 患者群と健常者群で、臨床症状と社会認知の得点を比較するため、Mann-Whitney U 検定を行った。次に、そこで有意差を示した臨床症状を共変量として、

共分散分析を行った。

得られた結果は次の通りである。

1. AN患者群は健常者群よりも、Body Mass Index(BMI)が有意に低かった。
2. AN患者群は健常者群よりも、BDI-II得点、state anxiety得点、trait anxiety得点が有意に高かった。
3. AN患者群は健常者群よりも、SCSQの心の理論得点、メタ認知得点、合計得点が有意に低かった。
4. BMI、BDI-II得点、state anxiety得点、trait anxiety得点を共変量として、共分散分析を行っても、AN患者群は健常者群よりも、SCSQの心の理論得点、メタ認知得点、合計得点が有意に低かった。

以上の結果は、低体重、抑うつ及び不安を統制しても、AN患者は健常者と比べて、心の理論やメタ認知の障害を有することを示し、これら社会認知の障害は患者の元来持つ特性であることを示唆している。この研究成果は、ANの病態理解に資するものであり、学位授与に値すると判定した。